



独立行政法人国立病院機構

久里浜医療センター

National Hospital Organization KURIHAMA Medical and Addiction Center

2023年8月14日

報道関係者各位

独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター

コロナ禍でアルコール依存の自助グループ集会に参加できなかったことの影響を解明

本研究グループでは、日本のアルコール依存の自助グループ（公益社団法人全日本断酒連盟：以下、断酒会）会員を対象とした全国横断調査を実施し、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）流行下の飲酒行動と緊急事態宣言や感染対策のために、対面開催の集会（以下、断酒例会）に参加できなかったことの影響を明らかにしました。

2020年1月、我が国で最初のCOVID-19感染例が報告された後、感染拡大予防のため、外出自粛およびソーシャル・ディスタンス等、対人接触を避けることが推奨されました。これらの対策は、孤立やうつ・不安、身体機能の低下など、多くの人々の心身の健康に悪影響を与えたことが、国内外の調査研究により報告されています。

これらのCOVID-19の感染対策は、アルコール依存を抱える人々にとっても大きな障壁になりました。コロナ禍では、自助グループ活動の中心である対面開催の集会は中止され、アルコール依存からの回復を目指す人が、お酒をやめ続けるために拠り所としている断酒例会に参加できなくなりました。このような状況下で、アルコール依存を抱える人々の飲酒状況の悪化や、再発などが懸念されました。しかし、これまでアルコール依存の自助グループ活動が制限を受けたことと、彼らの飲酒状況との関係は解明されていませんでした。

そこで、本研究では断酒会の協力を得て、2020年6月～8月、6478人の全会員を対象にアンケート調査を実施しました。2955名からの回答を解析したところ以下のことが分かりました。

1) コロナ禍で回答者の約6%が飲酒していました、2) 断酒会会員期間が長いことは断酒継続と関連していました、3) 男性では、対面での自助グループの集会に参加できないことは、コロナ禍での飲酒と強く関連していました。また男女ともに、抑うつ・不安などの心理的苦痛を感じていることは、コロナ禍での飲酒と強く関連していました。これらの結果から、政策立案者と医療提供者は、感染症流行時のような非常時においても、アルコール依存からの回復を求める人々に心理的苦痛の軽減と、自助グループ活動の継続性を維持できるよう支援することが重要であることが示唆されました。

研究代表者

独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター

松下 幸生 院長

筑波大学医学医療系 助教

独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター臨床研究部 非常勤研究員

新田 千枝

COVID-19感染拡大初期における アルコール依存の自助グループ会員の飲酒関連要因

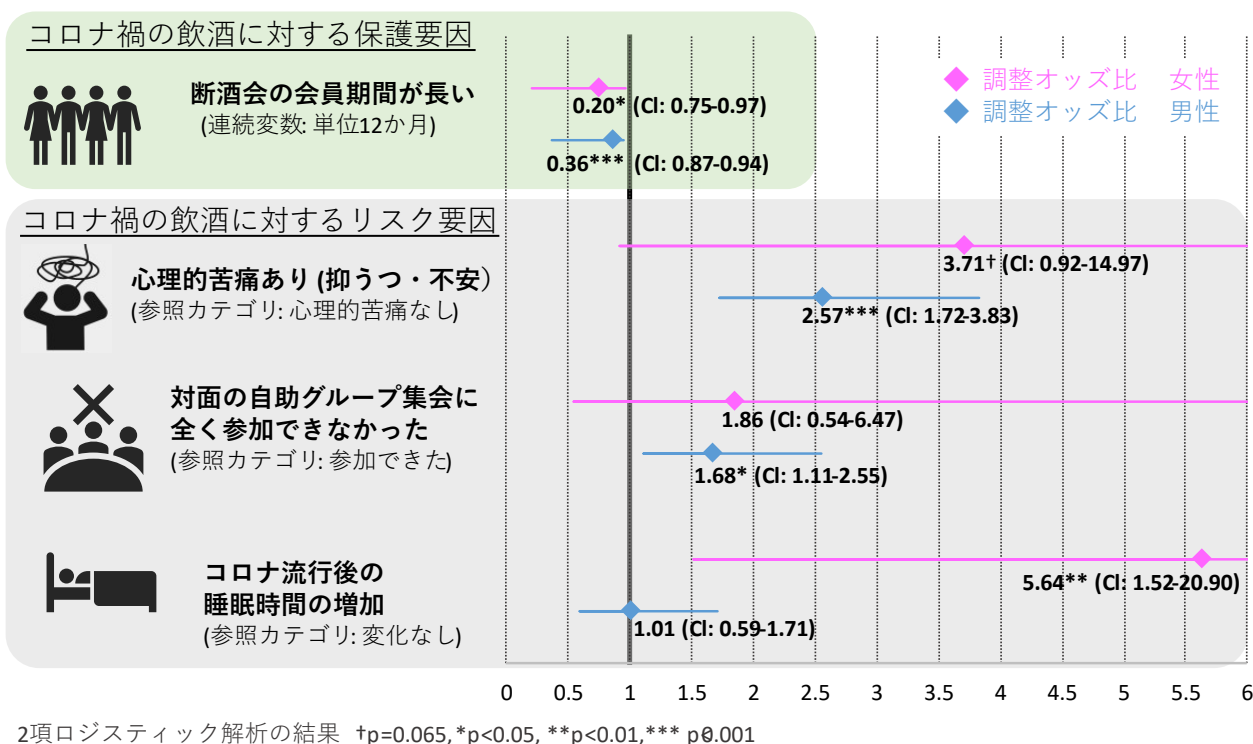


図 本研究で行なった解析結果の概要図

上図の見方は以下の通りです。

我々は、調査票配布時期に合わせて、コロナ感染拡大の時期を2020年2月～2022年6月末までと定義しました。そして、この期間の回答者の飲酒状況を目的変数として「飲酒した/飲酒していない」で2区分しました。そして、「飲酒した」ことに関連すると思われる複数の要因について、ロジスティック解析(変数選択:強制投入法)を用いて、男女別に検証しました。図中に示された調整オッズ比の値は、各要因の「飲酒した」ことへの影響の強さを示します。調整オッズ比の値が、1.0より大きいと「飲酒した」ことと関連が強い(リスク要因)と解釈できます。反対に、1.0未満の場合は、「飲酒した」こととは関連が弱い(保護的要因)と解釈できます。この結果から、断酒会の会員期間が1年長いごとに、「飲酒した」確率が、男性では64%、女性では80%有意に減少しました。反対に、「心理的苦痛がある人」は「ない人」に比べて、男性で2.57倍、女性で3.71倍「飲酒した」確率が有意に増加しました。また、男性では、「対面の自助グループ集会(断酒例会)に参加できなかった人」は、「参加できた」人に比べ、「飲酒した」確率が1.68倍に増加しました。また女性では、「コロナ流行後に睡眠時間が増加している人」は、「変化していない人」に比べ「飲酒した」確率が5.68倍に増加していました。

用語解説

注1) アルコール依存 (Alcohol dependence)

アルコール摂取の量や頻度などのコントロールができなくなり、やめたくてもやめられなくなる精神疾患です。多量のアルコール摂取により、心身に深刻な健康障害を引き起こすだけでなく、飲酒運転や失業、暴力など社会的にも大きな影響を与えます。アルコール依存を含む物質

使用障害は精神疾患の中でも高い死亡率であることが知られています。しかし、適切な治療や支援があれば回復できる病気です。正式な疾患名としては、アルコール依存症(alcohol dependence)の他、アルコール使用障害(alcohol use disorder)がありますが、本報告では「アルコール依存」と表記しました。

注2) 自助グループ (Self-help group)

同じ悩みや障害、困難や問題を抱える者同士が集まり、自らで支えあい、助け合うことで問題解決や、回復や成長を目指す集団のこと。日本における主なアルコール依存に関する自助グループは、断酒会とアルコールクス・アノニマス (Alcoholics Anonymous : AA) があり、自らの体験談を語り、聴くという定期的に開催される集会(断酒例会やミーティング)を活動の軸としています。

研究資金

本研究は、厚生労働省「令和2年度依存症に関する調査研究事業」の補助を受けて実施されました。

掲載論文

【題名】 Impact of COVID-19 and restricted self-help group attendance on drinking behavior among people with alcohol use disorder: Results of a nationwide cross-sectional survey
(新型コロナウイルス感染症と自助グループへの参加制限がアルコール使用障害者の飲酒行動に与える影響：全国横断調査の結果)

【著者名】 Chie Nitta, Sachio Matsushita

【掲載誌】 *Alcohol: Clinical and Experimental Research*

【掲載日】 2023年8月8日

【DOI】 <https://doi.org/10.1111/acer.15166>

問い合わせ先

【研究に関すること】

新田 千枝 (にった ちえ)

筑波大学 医学医療系 助教

Email: chie.nmd.tsukuba.ac.jp ※●を@に変えてください。

個人HP: <https://researchmap.jp/chie-nitta-prof/?lang=japanese>

所属HP: <https://soshin.pcmcd-tsukuba.jp/tsukuba-soshin/about/>

【取材・報道に関すること】

独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター

事務部管理課 広報担当

メールアドレス: 220-kouen@mail.hosp.go.jp

独立行政法人国立病院機構久里浜医療センターHP: <https://kurihama.hosp.go.jp/>